

編 集 後 記

本紀要は *Contexture* という名称を冠しているが、これは創刊当時の教養課程時代に付けられたもので、そこには con-「一緒に」+ texture「織られたもの」⇒「合わせ織り」という意味が込められている。さまざまな分野の研究が狭い殻に閉じこもるのではなく、学際的に「合わせ織り」、全体としていつの時代にも求められる教養の精神を志向しようという意気込みであった。

本号に集まった4篇の論文も内容は情報セキュリティー心理学、英国社会史、国際関係論、社会言語学と多彩であり、使用言語も日本語と英語に渡る。創刊以来の精神が受け継がれていることは喜ばしい。

また創刊以来30年以上に渡り本紀要を有形無形に支え続けて下さっている、大学を始めご関係の方々のご厚意も変わることがない。末筆ながら、心より厚くお礼申し上げたい。

(文責：齊藤)